

研修レポート

2017/2/13-2017/3/3 名古屋第一赤十字病院

今回の地域研修を通して医学的知識だけでなく多くのことを学ばせて頂きました。自分は現在名古屋に住んでおり、名古屋第一赤十字病院という名古屋の中でも中央に近い場所にて研修し医療に携わっています。その為、地方における医療について大学で学んだ程度の知識しかありませんでした。実際に地域医療を体験し、いかに自分が恵まれた環境で医療を行っていたのか実感しました。新城での医療の問題として医療施設及び従事者の少なさと交通の便の悪さがあると思います。名古屋第一赤十字病院では、急性期を脱しリハビリが必要な患者がいたら、すぐに近くのリハビリ病院に転院させるか、自宅からリハビリ通院をするという方針をとっていました。しかし、新城ではリハビリ病院は周りにほとんどなく、自宅から通院するにしても送迎をしてくれる人がいないため、新城市民病院にて長期間入院しリハビリをおこなわなければならないということがあります。

一番印象に残っている患者として、認知症が酷く医学的には車の運転を禁止しなければならないが、実際に禁止されると移動手段がなくなり生活がままならないと困っている患者がいました。交通手段が自家用車しかなく、巡回バスが走っていますが個人的な畑などには当然回ってくれず生活の困難さを感じました。地域柄、高齢者が多く、体調が悪くなっても車を運転することができず、すぐに送迎してくれる人もいないため悪化してからでないと病院に行けないという話も多く耳にしました。また、しんしろ助産所の見学も印象に残りました。産婦人科医がいないため、新城市内でお産をすることができず、妊婦は周辺の病院に行くか、お産の時だけ聖隷浜松病院に行くというものでした。現在はうまく回っているとおっしゃっていましたが、不便さはあると思いますし、ヒヤリとするような危険な時もあるかと思います。

新城での研修を通して、医学的知識に則った行動をし、治療をするのではなく、患者背景も含めて医療をおこなっていくことの大切さを学びました。患者のADLを低下させないよう配慮したり、患者家族との関係や、患者が服薬可能かどうかなどについても考えていくことも重要だと感じました。名古屋という都市部だけで医療をおこなっていたら、こうした部分がおろそかになっていたと思います。名古屋第一赤十字病院に戻っても、このような患者の社会的背景にも憂慮した医療を行っていけるよう、今回の研修で学んだことを忘れずに日々研鑽していきたいと思います。